



知床の森から

平成21年3月発行 第118号

(写真：オシンコシン周辺国有林を歩くスキーで進む)

北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160
ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp/>



第92回 森林レクリエーションin知床 【2月12日(木)】 「静寂の知床の森を歩くスキーで散策しよう」



オシンコシン展望台での記念撮影

葉の落ちた森林や動物の痕跡など厳しい冬を生き抜く動植物を観察しながら歩くスキーを使って森林散策をするイベントを開催し、60代を中心に北見や網走などから21名が参加しました。

コースはウトロ高原にあるイチイの森からオシンコシンまでの町道約5.5kmで当日は、あいにくの曇り空でしたが、木々の間からは水平線に浮かぶ流氷を見ることができました。散策ではまず、知床での増えすぎたエゾシカによる樹皮食害の被害やその被害対策として建てられた防鹿柵や網巻きなどを観察しました。

その他、トドマツの匂いを嗅いだり、森林官体験ということでミズナラの大木の太さ・高さを測りました。森林の音や鳥の声を聞くなど五感を満喫しました。後半は小雪がちらついてきましたが皆さん満足の様子でした。

で森林散策を楽しみ、林道から出たところでは大空に羽ばたくオジロワシも見られました。



第77回森とのふれあい

【1月10日(土)】

親子木工工作体験



冬休み企画として、親子でもっと木に触れ親しんでもらおうと「親子木工工作体験」を開催し、斜里町内外の親子11組28名が参加しました。



親子で楽しそうに作っている様子

最初にスライドを使って割り箸について学びました。普段自分たちの使っている割り箸の約98%が中国産であること、国産の割り箸は間伐材や端材などから作られ、木材を無駄なく使っていること等を学びました。その後、道産トドマツから作られた割り箸を使ってゴム鉄砲を作り、的あてゲームを楽しみました。



うまく的に当たるかな？



出来上がった作品を持って集合写真

後半は、枝や輪切り、ドングリなど色々な材料を使って自由に作品を作りました。使い慣れないのこぎりに悪戦苦闘しながら木材を切ったり、じっくりと考えながら材料を選んだり、皆さん楽しそうに親子で作品作りに取り組んでいました。

最後には、参加者の方から、「材料が豊富で、いろんなものをつくれたので楽しかった」「親子で作れてよかった」「木工工作だけでなく割り箸のことも学べたのでよかった」などの感想を頂きました。



第93回森林レクリエーションin知床

【3月1日(日)】

「早春の知床!かんじきを履いて森林観察に出かけよう」



冬化粧した知床連山や切り立った断崖など、知床ならではの景色を楽しめるフレベの滝周辺の森林をかんじきを履いて歩きながら観察するスノートレッキングを行い、12名が参加し冬の知床を楽しみました。

世界自然遺産区域内にあるフレベの滝周辺は、樹齢数百年の大木や冬を生きる野生生物たちの足跡や巣などが観察できます。

晴れ渡った空のもと、参加者の皆さんは森林の空気を全身で感じながら約3.5kmのコースを歩きました。途中、クマゲラの食痕や雪上にエゾリスの足跡などを見つけ、昆虫、動物、森林のつながりなど、生態系を感じながらの散策に感動していました。

次の写真は、イベント中に観察された動物たちの痕跡の一部です。どんな動物の痕跡かわかりますか？



ヒント

木の上にはブドウが見られました。

30センチほどの大きな穴です。

大小4つの足跡に指がはっきり見えます。

真ん中にかわいいしっぽの跡が見られます。



答え ヒグマの爪痕 クマゲラの食痕 エゾリスの足跡 ネズミの足跡

平成20年度 北の国・森林づくり技術交流発表会

「知床における環境教育の推進について」 ～知床森林センター10年のあゆみ～



北海道森林管理局（札幌市）大会議室で1月29（木）から30日（金）に開催され、当センターでは、森林ふれあい部門として「知床における環境教育の推進について」と題して、センター10年のあゆみから、今後の課題や環境教育プログラムについて検討した結果を取りまとめ発表しました。

発表は、質問時間3分間を含めて15分間で行われ、当センターの発表順は初日の午後一番であり、緊張の中で何とか所定の12分丁度で発表できました。発表後の質問では、「海外への情報発信は行っているのか」など多くの質問が審査員や一般席からあり、皆さんが興味を持って聞いてくれていたと感じました。

発表会全体を通じて、翌日の特別講演や特別発表をはじめ、他署やふれあいセンター、外部や高校生部門の発表を見ることができ、当センターでも応用できそうなことや新しく考えさせられる発表などが多くありました。



また、1Fウッドイーホールではパネル展が開催され、各署等や団体の取組や森林の写真等が展示され、当センターで知床の見所やセンターの取組と今回の発表に使用した詳しいデータを展示しました。翌日、全ての発表終了後に授賞式が開催され、当センターの発表は、森林ふれあい部門の北海道森林管理局長賞を受賞しました。



発表内容を展示したポスター

今回発表した「知床における環境教育の推進について」の概要を紹介します。

当センターは、自然豊かな知床で、森林林業の普及や国民参加の森づくり活動などのイベントを行っています。しかし、多様化する国民の期待や要請に応えるため、課題を明確にし、現在求められているイベントプログラムとフィールドデザインを検討しました。プログラムとしては、若い世代を取り込める企画や林業に関心を持ってもらう企画を考え、フィールドデザインでは、求められるプログラムを効果的に実践できる『森林ふれあい』、『体験林業』、『多段階型学習』の3種類のフィールドを検討しました。今回の研究を通じ、今後もその時々求められる企画やターゲットを的確にとらえ、効果的なプログラム及びフィールドを考えていきたいと考えます。

第5回「知床永久の森林づくり協議会」開催

2月24日（火）13時15分から委員12名のほかオブザーバー、森林管理局・署等担当を含め約40名の出席により、北海道森林管理局（札幌市）大会議室で開催されました。

今年度最後の協議会であり、実行体制検討部会の各チームの今年度の検討結果や育樹際と併せて実施した「エコロジカルツアー」など今年度の協議会としての活動報告と来年度の協議会の体制や活動方針について協議がされました。

平成19年7月の協議会設置から通算5回目となり、各委員から今後の協議会体制や活動内容等について、より具体的な意見や提案がされました。

今回の協議結果を踏まえ、来年度は更に検討を重ねていくと共に、森林づくり活動等も実践し、協議会活動を軌道に乗せていくよう取り組んでいきます。



知床は今

今年は暖冬でエゾシカにとっては過ごしやすい冬となっているようです。

例年は寒さや積雪で食べ物がなくなり越冬できなく餓死していくエゾシカがいましたが、近年は日中の気温も高く雪も少ない状況なので、ほとんどのエゾシカは越冬できるようになりました。このことでエゾシカの数はさらに増加して、餌が不足しており、貴重な高山植物やミズナラ・カシワといった今まで手をつけていなかった植物にも食痕が見られるようになっています。今後は更なる被害の拡大が懸念されています。



フレベに群がるエゾシカ



フレベ展望台から見た流氷

暖冬の影響は陸だけではなく、海では毎年やってくる流氷に影響が現れています。今年の流氷は量が少なく、流氷初日も過去3番目に遅いということです。流氷の量が多かった頃は、ぶつかり押し上げることで軋む音が聞こえてきたと言います。

流氷は多くのミネラルや植物プランクトンを運んでくることで、流氷の多い年は豊漁となり動物や漁業が潤うなど、知床は流氷による恩恵が多いのです。

昔の自然を取り戻すためには、二酸化炭素の排出を押さえる努力をして、二酸化炭素を吸収する木々を植え、手入れをしっかりとすることが重要です。そうすることにより、地球温暖化が軽減されていくと、また昔のような分厚い流氷が来てぶつかり押し上げていく音が聞けることでしょう。

ボランティア施設から

知床ボランティア活動施設は、4月上旬からの開館に向け、順次、展示物等を作り替えています。4月から知床森林センターも知床ボランティア活動施設の隣に移転することから、今年度よりも充実した業務運営ができると思います。

知床ボランティア活動施設は、地域の方々、観光客の方々に森林・林業・木材について理解してもらい実践したもらうための施設です。

これからも、皆様のご理解のもとに運営していき、「美しい森林づくり」活動がより一層推進できよう、職員一丸となって業務を遂行していきたいと思います。



知床ボランティア活動施設

移転のお知らせ

平成21年4月から**知床森林センターが斜里町ウトロに移転します。**

ウトロに移り、これまで以上に多くの知床の情報を皆様にお届けできるよう努力して参ります。今後ともよろしくお願いたします！

新住所 北海道斜里郡斜里町ウトロ（国設知床野営場内）

代表番号 0152-24-3466

FAX 0152-24-3477

詳しくは知床森林センターHP (<http://www.shiretoko.go.jp/>) が電話でご確認下さい。

